



児童生徒の確かな学びをつなぐ カリキュラム・マネジメントの確立を目指してⅡ

— 「佐大附特システム」の改善と授業実践を通して—



研究紀要(第 20 集)の発刊にあたって

佐賀大学教育学部附属特別支援学校

校長 荒木 真由美

第 16 期(令和 2・3 年度)研究における研究紀要(第 20 集)の発刊にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本校は昭和 53 年度に創設され、平成 28 年度より校名を佐賀大学教育学部附属特別支援学校とし、地域の特別支援教育のセンター的役割を果たすべく、教育実践に取り組んでまいりました。教育研究についても、日頃よりこれを国立大学附属学校としての大きな使命の一つと捉え、今年度で第 16 期 43 年目の発表と相成りました。これまで、テーマこそそれぞれ異なりますが、一人一人の児童生徒の実態や特性に応じた教育課程の編成、小中高一貫した指導・支援のあり方や授業づくりなど、よりよい教育支援とはどういうものか、研究を重ねてきたところです。

前期である第 15 期(平成 30 年度・令和元年度)研究では、平成 29 年からの学習指導要領改訂の公示を受け、「児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を目指して—明日の授業につながる附特システムの構築—」をテーマに、本校におけるカリキュラム・マネジメントの土台作りに取り組みました。カリキュラム・マネジメントを実際に進めていくためのシステムである「佐大附特システム」の構築、各教科目標や内容、評価などの明確化に取り組んだ研究授業においては、授業作りや、目標設定から評価の生かし方までを、学部や教科の枠を超えて協議を続け、研究報告にまとめました。しかし、「観点別評価」、「主体的・対話的で深い学び」の実現等については今後の課題としたことから、今回、第 16 期の研究でその課題を受け、「児童生徒の確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの確立を目指してⅡ—『佐大附特システム』の改善と授業実践を通して—」をテーマに、研究をより発展させ、向き合うこととしました。本日ここに、2 年間の研究成果を発表させていただきます。全国各地からご参会いただきました先生方、関係者の皆さまには、ご意見やご感想、ご指導をいただければ幸いに存じます。

本研究報告に際し、ご後援賜りました、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、佐賀県特別支援教育研究会各位に、この場を借りてお礼を申し上げます。

さらに、記念講演をいただきます文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官 加藤宏昭先生をはじめ、指導助言の先生方、日頃から本校の教育実践にご指導を賜っている関係機関の方々、またご理解とご協力をいただいている保護者の皆さまにも心から感謝申しあげ、ご挨拶とさせていただきます。

コロナ禍にあっても揺らぐことなく、熱心に研究を進めてきた本校職員に敬意を表します。

目 次

研究紀要（第 20 集）の発刊にあたって

第 1 章 研究の計画

- 第 1 節 今期研究（第 16 期研究）の計画 1
 - 1 研究テーマ
 - 2 テーマ設定の理由
 - 3 研究目的
 - 4 研究内容
 - 5 研究方法
 - 6 研究計画

- 第 2 節 カリキュラム・マネジメントを推進する「佐大附特システム」の概要 5
 - 1 「佐大附特システム」の構築

第 2 章 研究の実際

- 第 1 節 「佐大附特システム」の改善 16
 - 1 本校のカリキュラム・マネジメントに関する課題の整理
 - 2 カリキュラム・マネジメントに係る各計画の見直し
 - 3 カリキュラム・マネジメントに係る各計画の活用
 - 4 カリキュラム・マネジメントの全体像の再整理

- 第 2 節 「学習内容表」の作成と活用 40
 - 1 「学習内容表」の作成
 - 2 「学習内容表」の活用
 - 3 「学習内容表」の作成と活用に係るアンケートの結果

第3節	児童生徒の確かな学びをつなぐ授業実践	77
1	「佐大附特システム」に基づいた授業研究	
2	「児童生徒の確かな学びをつなぐポイント」の作成	

第3章 研究のまとめ及び成果と課題

第1節	今期研究のまとめ	135
1	「佐大附特システム」の改善について	
2	「学習内容表」の作成と活用について	
3	「児童生徒の確かな学びをつなぐ」授業実践について	
第2節	今期研究の成果と課題	139
1	成果	
2	課題	